

令和3年度

学力定着のためのリーフレット 国語編

＝コアティーチャーネットワークプロジェクトまとめ＝

大島教育事務所

「未来の創り手を育成する学力向上プログラム」の一環として行われたコアティーチャーネットワークプロジェクトで「質の高い授業」のモデルづくりに取り組みました。
大島地区で課題のある単元や指導法に焦点を当てていますので、ぜひ、参考にして日々の授業に生かしましょう。

1 大島地区の国語科の課題 (令和2年度鹿児島学習定着度調査結果から)

- 「鹿児島学習定着度調査」結果分析より



無答率から、「読んだことを基に、自分の考えを条件に応じて書くことが難しい児童生徒が多い」ということが分かりました。
※ 無答率 小5… 7.4%
中1… 8.7%
中2… 17.4%

○「本」についての意見交換の□にBさんの立場に立って、あなたの考えを次の条件1と条件2にしたがって書く。
条件1 ○自分の発言を参考「A」「C」の文章の中から叙述を取り上げて書くこと。また取り上げた叙述は「B」の文章の中に入れて書く。
条件2 「私(自分)が書き出した」続々適切な表現で書くこと。

日頃の授業から、条件に応じて自分の考えを表現していけるような授業改善が必要です。右の問題は、中学校2年生の問題ですが、小学校低学年からの積み上げが大切です。くわしくは、下のコラムをご覧ください。



大島地区国語科の課題

～読んだことを基に、自分の考えを分かりやすく表現すること～

2 授業づくりのポイント

- 【視点1】 相手意識や目的意識を明確にした「単元構想の工夫」
- 【視点2】 学びの深まりや変容を実感させる「確かめ・見届け」

コラム 小学校3年生では・・・

条件1 一文目は、自分が感じたことを書く。
条件2 一文目以降は、自分の考えを根拠となる言葉や数字を示して、資料から分かることを150字程度で書く。
条件3 10分で書く。

【視点1】 意見文に納得できるかどうかその理由を基に話し合わせる。

○ 単元を通して解決したい課題を明確にする。
・ 考えに合った資料をどのように選ぶか。
・ 資料をどのように読み取るか。
・ 相手や目的によって、どのような言葉を使えばよいか。
・ 資料から分かることと自分の考えをどのように伝えればよいか。

【視点2】 試し作りを通した自分の考えの変容と、自分の課題を明確にしながら、学習を振り返らせる。

小学校1年生では・・・

条件1 「この車すかむ」(ハヤシ)一文目は、車の名前を書く。
条件2 一文目は、「このため」(ハヤシ)を使う。
条件3 百字以内で書く。

【視点1】 相手意識や目的意識をもつことができるように、伝える相手や場を設定する。
<例> ・ 学習発表会で、保護者や地域の方に。
・ 市町村長や議会(子ども議会)などに。
・ 新聞や市町村広報誌に投稿する。

【視点2】 試し作りを通した自分の考えの変容と、自分の課題を明確にしながら、学習を振り返らせる。

小学校低・中・高学年でも取り組むことが出来る条件に応じて記述の例を紹介しています。

4 授業モデル2 小学校第5学年「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう」(1/11)

- 単元の目標
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知識及び技能)
 - 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
 - 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
 - 粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

授業充実の3ポイント	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
(目標の明確化) ○ 興味関心が生まれる導入 ○ 問題意識の焦点化 ○ 学習課題の設定 ○ 解決の予想と見通し	1 社会がくらしやすい方向へ向かっているかを話し合う。 わたしは、くらしやすくなっていると思うな。表があると分かりやすいね。 本当にそう言えるかな。ぼくは、くらしにくくなっていると思うよ。 2 学習課題を設定する。 試しの意見文を書いて、単元の学習課題を設定しよう。 3 学習課題に対して自分の考えをもつ。	7	○ 資料：教科書P.150の「平日の生活時間(平均)」を提示し、話し合う。 ○ 問題意識をもてるように、モデルとなる簡単な意見文を提示する。 <例>わたしは、日本の社会は、くらしやすい方向に向かっていると思います。なぜなら、小学5年生の通学時間がへっているからです。 ○ 試しの意見文を書くことを通して、学習の課題や見通しをもつことができるようにする。
(山場の工夫) ○ 自力解決による最初の考え(仮説)の構築	4 自分の主張をはっきりさせて、資料を基に文章を書く。 私は、くらしやすい方向に向かっていると思うよ。学業・仕事の時間が増えて、睡眠時間も減っているから、ゆっくりできる時間がないんじゃないかな。 食事の時間を見ると、小学生も働く人も増えているからくらしやすい方向に向かっているのかな。	10	○ 自分の考えをはっきりさせて、その根拠となる言葉や数字を示し、その上で資料から分かることを述べるようにする。<演習問題> 条件1 一文目は、自分の考えを書く。 条件2 二文目以降は、自分の考えの根拠となる言葉や数字を示して、資料から分かることを150字程度で書く。 条件3 10分で書く。
○ 考えの共有(学び合い) ○ 自力解決による最終的な考えの構築	5 書いた文章を基に話し合う。 ・ 資料から分かることを相手に伝えるように文章にするのが難しいな。 ・ 資料から分かることなのか、自分の考えなのか分かるように書いた方がいいね。 ・ どんな順序にしたって、どんな言葉を使ったりしたらいいのかな。 ・ この資料だけでは、自分の主張が伝えられないな。 出てきた課題を解決するために、これから「図有種が教えてくれること」を読んでいきましょう。	18	○ 意見文に納得できるかどうかその理由を基に話し合わせる。 【視点1】 単元を通して解決したい課題を明確にする。 ・ 考えに合った資料をどのように選ぶか。 ・ 資料をどのように読み取るか。 ・ 相手や目的によって、どのような言葉を使えばよいか。 ・ 資料から分かることと自分の考えをどのように伝えればよいか。
(確かめ見届け) ○ 学習のまとめ ○ 振り返り	6 単元の学習課題を設定する。 資料を用いた文章の効果を考え、自分の考えを文章にして伝えよう。 7 単元の学習計画を立てる。 みんなが書いた意見文をだれに伝えようかな。 8 本時の学習を振り返る。 ・ 分かったこと ・ なるほどと思ったこと ・ これからやってみようこと ・ 考えが変わったこと ・ 生かしたいこと など	10	【視点1】 相手意識や目的意識をもつことができるように、伝える相手や場を設定する。 <例> ・ 学習発表会で、保護者や地域の方に。 ・ 市町村長や議会(子ども議会)などに。 ・ 新聞や市町村広報誌に投稿する。 【視点2】 試し作りを通した自分の考えの変容と、自分の課題を明確にしながら、学習を振り返らせる。

【コアティーチャーネットワークプロジェクト国語部員】

野間 かつき (小宿小), 上山 留美 (田検小), 井上 里美 (大和小), 中野 晶仁 (宇検村教育委員会)
 野村 優也 (与論中), 松崎 裕也 (田検中), 瀬脇 浩文 (北中), 小峯 三朗 (大島教育事務所)

3 授業モデル1 (中学校第1学年)



それでは、授業づくりの視点を踏まえて、令和3年度コアティーチャーネットワークプロジェクトで作成した授業モデルを見てみましょう。

(1) 単元名	友人にとって役立つ情報をレポートで伝えよう
(2) 教材名	「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」(光村図書 国語1)
(3) 目標	1 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係や、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解することができる。(知識及び技能) 2 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) 3 意見と根拠の関係性について進んで読みを深め、学習課題に沿って自分の思いや考えを伝え合おうとしている。(学びに向かう力、人間性等)
(4) 本時の指導のポイント	

【視点1】 ・ 目的意識を明確にした学びのために、学習課題を工夫したり、見通しをもたせたりする。
・ 反論を考えさせたり、叙述を読ませたりすることで、学習課題に対する考えを再構築し、表現に生かせるようにする。

【視点2】 ・ 学習を振り返らせることで、複数の根拠を示すことが説得力の高まりにつながることを実感させるとともに、自分の学びの変容とその理由(過程)を明らかにし、次時につなげさせる。

(5) 単元の学習計画 (全9時間)

時間	教材名	主な学習内容	指導上の留意点
第1時	「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」	・ 単元の流れを理解し、検証①まで本文を読む。 ・ 筆者の仮説に対して、検証を考える。	・ 自分なりの検証を考えさせることで、深い理解につなげさせる。
第2時		・ 筆者の検証①を捉え、自分の考えた検証と比較する。	・ 事実と意見の関係を確認させる。
第3時(本時)		・ 検証①を批判的に読み、課題を探る。 ・ 検証②がなぜ必要か、理由を考える。	・ 意見や考えを再検討することでさらに説得力が増すことに気付かせる。
第4時		・ 本文の記述や図表の関連などを根拠に自分の考えをまとめる。	・ 資料の提示の仕方を考えさせ、自分のレポート作成に生かさせる。
第5時	「根拠を示して説明しよう」を引用してレポートを書く	・ テーマを決め、調査を行う。	・ 思考ツールを用いて情報の整理や分類を行い、テーマを明確にさせる。
第6,7時		・ 調査結果を整理し、構成を考える。	・ 前時までに学習したことを生かしながらレポートを構成させる。
第8時		・ 図表などを引用してレポートを作成する。	・ 資料を引用する際は、情報の引用の仕方や取り扱いについて触れる。
第9時	資料	・ レポートを読み、評価し合う。	・ 評価のための観点を示す。(観点例 テーマ設定、資料の提示等)

(6) 本時の実際

目標

- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。(思考力、判断力、表現力等) C E

授業充実の3ポイント	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ(※評価)
(目標の明確化) ○ 課題意識の焦点化	1 前時の学習を振り返る。 2 筆者の検証について自分の考えをもつ。 この実験でシジュウカラが言葉をもつことを立証することができているね。 そうかな、僕はこれだけでは言葉をもつことになるかは証明できないような気がするけど。 3 学習課題を設定する。 筆者は、なぜ2つの検証を行ったのだろう。 4 学習の流れを確認する。	5	○ 前時で確認した検証で仮説を証明できるかどうか、自分の考えをもたせる。 視点1 学習課題に対して、目的意識を明確にした学びになるように、意識付けをし、見通しをもたせる。
○ 学習課題の設定 ○ 解決の見通し (山場の工夫) ○ 自力解決による最初の考えの構築	5 筆者の検証に対して、反論を考える。 筆者の検証に対して反論を考えてみましょう。 「ジャージャー」が他のことを意味する合図かもしれないよ。 「下を見ているだけで、ヘビを確認しているとは限らない。」とかは？ 6 タブレットを活用し意見を交流する。 7 検証①に対する問題点と検証②を読み取る。 (教材文) ・十分に主張できるでしょうか。 ・実際にヘビの姿をイメージしているのかを検証しようと考えました。 ・小枝をヘビと見間違えたのだと解釈できます。 など教材文の描写より	5	○ タブレットで生徒の思考を可視化し、多様な意見を交流できるようにする。 視点1 学習課題に対する考えを、反論を考えさせたり、叙述を読ませたりしながら再構築させ、表現に生かせるようにする。
○ 考えの共有・学び合い ○ 自力解決による最終的な考えの構築	8 検証②が必要になる理由を考える。 新たな問題点が出てきたから、それを解決しないと証明できないよね。 複数の検証をすることで、根拠が増え、仮説をより説得力のあるものにする事ができるからじゃないかな。 9 グループで話し合う。	10	○ 教材文に線を引かせる。 ○ 回答をワークシートで示す。 鳴き声を聞かせる検証だけでは、 <input type="checkbox"/> だったため、鳴き声を聞かせながら、 <input type="checkbox"/> する検証を行った。 ※ 筆者の考えを叙述に即して読み取ることができる。
(確かめ見届け) ○ 学習のまとめ	10 本時のまとめを行う。 複数の情報を根拠にしたり、情報を批判的に読み取ったりすることで、自分の主張に対して説得力を増すことができるから。 11 次時の見通しをもつ。 視点2 学習を振り返らせることで、複数の根拠を示すことが説得力の高まりにつながることを実感させるとともに、自分の学びの変容とその理由(過程)を明らかにし、次時につなげさせる。	10	○ 本時のまとめを意識させながら、考えを1つにまとめさせる。 条件1 キーワードとして、「複数」、「説得力」を用いて書く。 条件2 60字以内で書く。 条件3 5分で書く。 ※ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にしてまとめることができる。 ○ 今回の学びが、今後のレポート作りに生かされていくことに気付かせる。